

ほとけの子通信



「子どもは親が作る物ではない、天からの授かりものでもない、仏様からの預かりものである」

なかじま はるか
題字：中島 春風さん・小3

平成27年3月発行

日蓮宗名古屋青年会機関紙『見聞』第25号

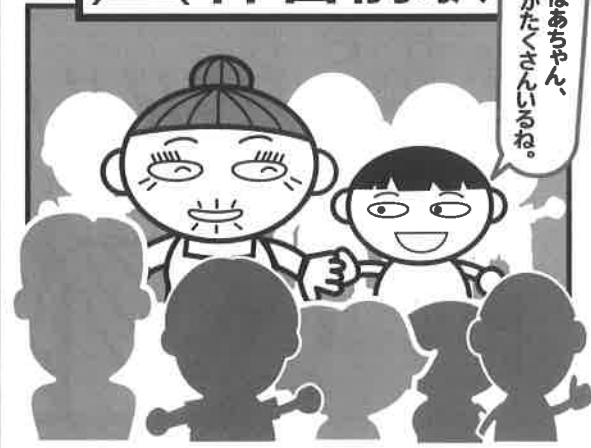


31
42

今日は、おでかけ。



じんぐうまえき
神宮前駅



おばあちゃん、人がたくさんいるね。



何してるんだらう？

第四十三回 青少年と青年僧の集い

私たち日蓮宗名古屋青年会では、毎年夏休みに小学二年生から中学生を対象とした修養道場『青少年と青年僧の集い』（サマーキャンプ）を開催しております。本年は、七月二十九日より七月三十一日の二泊三日の日程で開催致します。ほとけ様の教えを学び、貴重な体験ができる三日間にしたいと現在企画中です。お手伝いしていただけるスタッフも募集しております。詳しくは青年会事務局までお問い合わせください。



『天上天下唯我独尊』

- ・お釈迦様が生まれてすぐに発せられた言葉
- ・自分と言う存在は誰にも変わることはできない人間として生まれており、この命のまま尊い、という意味
- ※「自身が最も尊い存在である」という意味で使われることが多いようですが、本来の意図するところは、「誰もが人として生まれる」ということは、当たり前でないことであり、尊いことである」ということを教えているのです。

保護者の皆様へ

日本への仏教の公伝は、約千五百年前の西暦五三八年（諸説あり）といわれています。当時の仏教は民衆の中での信仰ではなく、貴族や官僚等の限られた人達の中での信仰でした。

有名な歴史上の人物、聖徳太子は仏教を厚く信仰し、太子が作ったとされる『十七条憲法』には仏教思想が反映されており、貴族や官僚の道徳的規範として定められています。

その後、時代が進むにつれ民間にも教えが広まり、現在に至るまで千年以上、民間での仏教信仰が続いています。

私たちが普段、何気なく使っている言葉には、仏教由来の言葉がたくさんあります。少し例にあげてみますと、『挨拶』『玄関』『教師』『生徒』『出世』・・・、私たちが日常生活においてよく使用する言葉ですが、これらは全て仏教由来の言葉です。

このことから私たちの生活と仏教とがいかに繋がりの深いものかがわかります。

日本の歴史と密接に係わり、私たちの生活と深い繋がりのある仏教、そしてその教えをお説きになられたお釈迦様に感謝をし、四月八日の花まつりを過ごしてみたいかがでしようか。

日蓮宗名古屋青年会会長
勅使河原 寛祥

日蓮宗名古屋青年会事務局

〒467-0835 名古屋市瑞穂区井戸田町4-89 (最経寺内 深沢)

事務局携帯番号：090-1098-7581

Homepage：http://nns-j.com/

日蓮宗名古屋青年会

日蓮宗名古屋青年会の活動に賛同していただいている方々です

<p>宝 塔 寺 様</p>	<p>日蓮宗のお仏壇 お数珠 仏壇の こだま TEL 322-1525 大須南本町通七面様門前 (資)児玉仏具店</p>	<p>支援金をお願い 日蓮宗名古屋青年会を、よろしくお願ひいたします。 郵便振替口座 12150-72109551 (日蓮宗名古屋青年会)</p>	<p>御仏に抱かれて 生かされてゐることに 感謝を！ “先祖ありて自分あり” 葬儀コンサルタント 365日・24時間体制 (株)ナゴヤ共益社 フリーコール 0120-40-0044</p>
----------------------------	--	---	--